



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	CULTURAL DIFFERENCES IN CONSPICUOUS CONSUMPTION : A SOCIO-ECOLOGICAL APPROACH
Author(s)	朱, 一鳴
Description	この博士論文の全文は利用可能日以降に公開されます。
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(人間科学)
Dissertation Number	甲第16669号
Issue Date	2025-09-25
DOI	https://doi.org/10.14943/doctoral.k16669
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98279
Type	doctoral thesis
File Information	Yiming_Zhu_review.pdf, 審査の要旨 https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（人間科学）

氏名：朱 一鸣

	主査	教授	結	城	雅	樹
審査委員	副査	教授	大	沼		進
	副査	准教授	林		琢	也

学位論文題名

CULTURAL DIFFERENCES IN CONSPICUOUS CONSUMPTION: A SOCIO-ECOLOGICAL APPROACH
(誇示的消費における文化的差異：社会生態学的アプローチ)

・当該研究領域における本論文の特筆すべき研究成果

本論文の特筆すべき研究成果として、以下の3点を挙げる。

第一に、従来の消費行動の文化差研究が、主として個人主義－集団主義を始めとする文化的価値観の次元に説明を依拠してきたのに対し、本論文は社会生態学的視点から誇示的消費行動の文化差を検討した点に新規性がある。特に、近年注目されている社会生態変数「関係流動性」を導入し、誇示的消費行動を社会環境における適応戦略として位置づけた。社会環境の差異が人々の行動戦略としての誇示的消費に及ぼす影響を理論的かつ実証的に明らかにしており、その学術的意義は大きい。

第二に、誇示的消費の動機を「差別化」と「同化」に区分し、さらに消費対象を「高級品」と「環境配慮型商品」に区分して検討した点に新規性がある。これにより、消費行動研究に新たな方向性を提示している。特に環境配慮型消費は現代社会で社会的重要性が増しており、Study 3 および Study 4 では関係流動性が環境配慮型消費に与える効果を説得的に示している。

第三に、全体として4つの実証研究（国際比較調査・実験）を丁寧に設計・遂行していることが挙げられる。特に Study 4 では、関係流動性を実験的に操作することで因果関係を検討し、従来は相関的手法に依存しがちであった研究を大きく前進させている。

・学位授与に関する委員会の所見

本論文の理論的貢献は、社会的関心を集めながらも、実証的研究の蓄積が限定的であった誇示的消費の文化差という現象を、社会生態学的アプローチという一般化可能性の高い理論によって説明した点にある。これにより、当該領域に対して新たな地平を開いたと評価できる。方法論についても、オーソドックスな実験手法を含め適切に設計され、丁寧に分析されている。研究デザインや統計分析の観点からの瑕疵は見られず、結果の解釈も十分な妥当性を備えている。口頭試問においては、本研究で扱いきれなかった課題や今後の研究展望について申請者自身が十分に自覚していることが確認された。

以上を総合的に評価し、本審査委員会は全員一致で、朱一鸣氏に博士（人間科学）の学位を授与することが適当であるとの結論に達した。